

高校生の神楽甲子園

全国各地で伝統芸能を受け継ぐ高校生たちが、今年も神楽ドームに集結。日頃の稽古で磨き上げた舞や演奏

日藝選奨

1日目
7月25日(土)

伊保内高校(岩手県)
「江刺家神楽」

講評

地域の伝統芸能「江刺家神楽」を深く理解し、その魅力と貴重さを見事に表現していました。まず、神に捧げる番楽の息の合った掛け合いが実に見事でした。注連切舞(しめきりまい)や盆舞、つるぎ舞では、体を限界まで使いながらも、一つ一つの動きを丁寧かつダイナミックに表現。最後の切舞まで力を緩めることなく、全身全霊で舞い切る姿は、まさに魂の舞のようで、深く心を揺さぶられました。



日藝選奨

2日目
7月26日(日)

加計高校芸北分校(広島県)
「八岐大蛇」

講評

「八岐大蛇」は、姫が大蛇に襲われる冒頭から印象的で、物語に引き込まれる構成でした。須佐之男命をはじめ、それぞれが役柄の特徴をよく捉えた演技も見事。特に、8匹の大蛇の登場の仕方や表現は、かなりの練習を重ねてきたと思わせる名演でした。トラブルにも機転を利かせて対応する姿も素晴らしかったです。後半はダイナミックな演技と演出が融合し、最後に登場する白い大蛇は圧巻でした。



ひろしま安芸高田

を披露し、会場を魅了しました。熱気と青春があふれた2日間の様子をお届けします。

当日の様子ははこちらから



YouTubeチャンネル
「【公式】神楽門前湯治村」

今年も魅せた

新たな仲間を迎え、
さらに躍動！

吉田高校神楽部

吉田高校神楽部は、今年度19人で活動。新たに加わった1年生は10人と、頼もしい仲間が一気に増えました。神楽経験者も多く、ますますパワーアップ！ これからの活躍が楽しみです。



小林教授からも高い評価をいただきました！

安定した奏楽が舞台をしっかりと支え、ト部季武、坂田金時、侍女・胡蝶は、基本的に忠実な舞が印象的でした。土蜘蛛の精魂を演じた金子優斗さんは、物語の展開に合わせて演技や技法を巧みに変化させ、役柄を鮮やかに表現。重い装束をまといながら、激しい舞の中でも細部まで表現を追求する姿には感服しました。まさに“神楽の聖地”として郷土の誇りを感じさせる素晴らしい演舞でした。



今年は「土蜘蛛」を披露

神楽未経験から入部し、
今年初めて神楽甲子園の舞台へ

配役
「手打鉦」

永田 俊太郎さん
(3年)



神楽をする友人の姿を見てカッコいいと思い、入部した永田さん。大太鼓や小太鼓の音をよく聴き、全体に合わせながら、音の強弱やメリハリを付けることを意識して練習。

神楽甲子園を終えて…

これまでは裏方だったため、大きな舞台に出演するのは今回が初めて。演奏中の目線や所作、盛り上がる場面での体の動きにも気を配りました。みんなで一つの舞台をつくる一体感を味わえました。



神楽団でも活動する
神楽部のエース

配役
「土蜘蛛の精魂」
金子 優斗さん
(1年)



練習で大切にしているのは、奏楽をよく聴き、相手の動きに合わせながら舞うこと。所作や面の切り方にも気を配り、できていないところを見つけて練習を重ねています。

神楽甲子園を終えて…

複数人で舞う場面では、息を合わせながらスピードを調整する難しさを実感しました。今後は面の切り方やタイミングに加え、演目により深く入り込み、場面に合った「間」を表現できるようになりたいです。



成長していきけるよう
頑張ります！



みんなのまとめ役
神楽部部长

配役
「大太鼓」
住吉 昭飛さん
(2年)

神楽甲子園では、他校のレベルの高い舞に刺激を受け、自分たちにはまだ未熟な部分があると感じました。でも、ほとんどを自分たち高校生だけで考え、つくり上げた神楽を評価してもらえたことはうれしかったです。今回の結果をみんなが悔しいと思えたら、もっと上を目指せるはず。僕自身も腕を磨きながら、仲間と一緒に成長し、来年はさらに自分たちらしい神楽を披露したいです。



商工観光課 観光係 ☎お太助フォン 47-4024